



★1キロオーバーのイヤコハタ



▲同船のハタ五目は6〜8名限定



▲定番ゲストのカンコは2キロ級の良型も珍しくない



▲35〜40センチ級のムツも上がった



▲底付近で待つとアヤマカサゴがわれ先に食ってくる
▲2.5キロ級のヒラメも登場



★マハタの当日最大は5キロだったが、南伊豆には10キロオーバーの大物も潜む

●ヒット直後は根に潜られないよう強引に巻き上げ底から引き離す



▲起伏の激しいカケ上りを中心に船を流していく



▼ヒラメと違ってエサのイワシは大きいほどいい



▲仕掛けはハリス12号の胴つき1本バリ、オモリは80号

★釣り場は神子元島周りや白浜〜石廊崎沖にかけての水深40〜120メートル前後。当日は石廊崎沖を中心に狙った

南伊豆手石港出船

イワシ泳がせで大物を狙う 食い活発！南伊豆のハタ五目

撮影●椎名義徳



●何度も底ダチを取り直しながら、底から5メートルくらい上まで集中して誘い続ける

喜ばせている。そんな根魚たちを狙っている船宿の1軒が南伊豆手石港の敬昇丸。この時期は生きイワシを泳がせるハタ五目乗合で出船し、2月中旬の取材日は最大5キロのマハタを筆頭にイヤコハタやカンコ(ウツカリカサゴ)、アヤマカサゴ、ヒラメ、ムツ、6キロ級のワラサなどを交えてにぎやかな五目釣りが楽しめた。5月までのロングランで狙えるので、根魚ファンならずとも一度は釣行して挑戦してほしい。(詳細は56ページ参照)

●南伊豆手石港・敬昇丸 肥田 能研船長

四季折おりの釣りが楽しめる南伊豆は根魚の魚影が濃いことでも知られ、沿岸の岩礁帯ではマハタを始めイヤコハタ、オオモンハタ、ホウキハタ、アカハタなど、美味なハタ類を中心とした様々な根魚が顔を出してファンを



●6キロ級のワラサ

●早朝にヒットした強烈な引きの正体は……

